

Key
Person



(株)迅翔興業 代表取締役

関口 翔太

鳶工事をメインに手掛けている徳島県の『迅翔興業』。

同社の関口社長は22歳で独立後、6年足らずで15名の従業員を抱えるまでに成長させた。

そんな社長は「特別、具体的な目標は立てていません」と語る。

これは、決して何も考えていないというわけではない。

この道で生きていくという、強い覚悟を持って仕事に臨んでいる社長は、一つひとつの依頼に対して、全身全霊に取り組んで確実に現場を納めていく。

目の前にある仕事に全力で臨めば、結果は自ずとついてくるものだから——それが同社を成長に導いている社長のスタイルだ。

「仕事一つひとつに直向きに打ち込めば、
自然と結果はついてくるんです」

徳島 No.1 の鳶工事会社へ 前進続ける若手職人集団

鳶工事をメインに、解体工事、土木工事、仮設工事など幅広い工事に携わっている、徳島県の『迅翔興業』。同社の関口社長は、中学卒業からこの世界に飛び込み、熱心に技術を突き詰めてきた。そんな技術を活かした確かな仕事で、周囲からの信頼を獲得。県外からも多くの依頼が寄せられている。本日は俳優の野村宏伸氏が、同社を訪問。お話を伺った。

この業界で生きると決意 熱心な仕事ぶりで確かな評価を得る

——まずは、関口社長の歩みからお聞かせ下さい。

ここ徳島市で生まれ育ち、中学卒業後、15歳で建設業界に入りました。当時からとにかく負けず嫌いで、仕事が好きだからというよりも、誰にも負けたくない、という思いで、これまで仕事を続けてきましたね。

——そんな若い時分から働き始めて、これまで道一筋に歩まれてきたと。

ええ。ただ、働き始めて半年くらいで、少しやんちゃが過ぎて、私は仕事を辞めることになりました……。そんな時も、当時の勤め先の方が「待っているから」と声を掛けて下さったんです。その時に、自分を必要としてくれる人があるのだから、戻ることができたからこの道一筋で働いていこうと決意しましたね。そうして、17歳でそちらに戻り、現場に復帰してみると、同年代の職人が増えていて、負けず嫌いに再び火が付きしました。それから一心に仕事に打ち込み、ありがたいことに「関口の仕事ぶりは、ずば抜けている」と言われるようになり、プレッシャーもありましたが、自信につながり

ましたね。その後、一度転職してさらに技術に磨きをかけ、22歳の時に取引先の社長から、「オリンピックが決まって、この業界にはこれから大きな波が来るから、独立をしたらどうか」と勧められたのがきっかけで独立。ありがたいことに、私の仕事ぶりを見て下さった方が多く、お仕事をいただいたり、お手伝いさせていただけたりしました。ですから、独立後も軌道に乗せることができ、順調にこれまで歩めています。

——やはり、社長の仕事に懸ける強い決意があったから、周囲の人々から信頼されて、順調なんだと思うのですよ。

私は、この道で生きていくと決めていますし、それだけ仕事に熱中しています。その熱は誰にも負ける気はしませんから、そんな姿勢を周囲の方々が認めて下さったのかもしれないですね。

県外からも依頼が殺到 ただ直向きに仕事を続けていく

——熱い思いを持っていらっしゃる社長のもとには人材も自然と集まってくると思います。現在、御社の従業員さんは何名なのでしょう。

徳島の同業他社は横のつながりが強

く、一社5名くらいで動いているところが多いのですが、当社は15名いるんですね。従業員たちがそれぞれ人々を呼んでくれたお陰で、人材不足な業界にもかかわらず、人材集めに苦労を感じたことがないんですよ。そして、私が昔やんちゃをしていた時に帰る場所を与えてくれた方がいたように、一度当社に入ってくれた従業員には縁を感じますし、大切にしていきたいんですよ。

現在は、鳶工事をメインに解体・土木・仮設工事などを幅広く手掛けていて、仕事の依頼は、これまでのつながりからいただくことがほとんどなんです。依頼があれば、徳島県外も行きますし、最近では大阪の現場に行きました。基本的にどこでも駆けつけますよ。

——人材もいて、仕事の依頼も多い。まさに順風満帆ですね。それも社長がこれまで紡いできた人との縁大切にしているからだと感じます。最後に、今後の目標をお聞かせ願えますか。

独立した時は、将来の目標など立てる余裕もなく、仕事をいただけるか、ただだけないかもわからない状態でした。そして、いただけたお仕事に真っ直ぐ向き合い、丁寧に一つずつこなすことで、結果に結びつき、ここまで成長させることができました。ですから、経営設計のような目標は特に考えていなくて、「徳島で一番大きい建築会社になる」という、小学生が作文で書くような目標しか浮かばないですよ（笑）。時代の流れもありますから、先の事を考えても仕方ないと思うんです。今こうしようと考えていても、5年後それが通用するかはわかりません。ですから、将来何が起きても大丈夫なように、今いただいている仕事をしっかりこなすこと。そうすれば、5年後は県内でも大きい会社になっているだろうと思っています。これからも、目の前にある仕事に邁進し、成長させていきたいと思っていますね。

（取材／2018年10月）

人を惹きつける魅力

人材確保が困難を窮める建設業界。徳島でも、人手不足にあえぐ企業は少なくない。そんな業界の中で、15名もの自社スタッフが揃う『迅翔興業』。同社の関口社長は「運が良いことに、人材不足に困ったことがなく、従業員たちが集めてきてくれたんです」と語る。だが、運だけではないはずだ。人が集まるのには、それなりの理由が当然ある。

対談でよく耳にしたのは「仕事に一生懸命」、「今を頑張っていれば5年後には大きい会社になっている」、「苦勞を苦勞と思わない」など、前向きな言葉であった。そして、そうした社長の姿勢が人が集まる要因なのだろう。仕事に対して真面目に取り組み、丁寧な仕事ぶりで、確実に現場を納めていく。誰よりも自分の仕事に誇りを持っているから、そして誰よりも仕事に自信があるから——そう力強く前進する社長の姿に職人たちは惚れ込み、自然と集まってくるのだらう。

受けた仕事に責任を持って邁進し、その背中で力強く同社を率いていく社長から、一層目が離せない。



株式会社 迅翔興業

徳島県徳島市南昭和町1丁目23
三谷第一ビル 6F 3

代表取締役

関口 翔太

徳島市出身。中学卒業と同時に鳶の世界に入る。持ち前の負けん気の強さで、技術と知識を身につけ、22歳の若さで独立。周囲とは一線を画する仕事ぶりが評判を呼び、依頼が殺到。成長を続けている。



野村 宏伸

After the Interview

「10代という若さで、この業界で生きていくと決意した関口社長は、これまで仕事に対して真面目に、そして熱中して取り組んできたそう。それは、経営者となった今でも変わらず、「これまでのスタイルを貫いていたら、仕事にも人材にも恵まれてきた。特別なことはしていない」と社長は話して下さいました。そんな真面目で確実な仕事をする社長のもとに仕事が集まるのは当然なことのように思いますよね。応援していますよ」